

## Ⅱ 業務の概要



## 1 業務の概要

部	試験検査等	調査研究等
生活企画部	1 花粉症予防対策事業	1 ヒスタミンによる食中毒防止のための研究
	2 公衆衛生情報の収集及び提供事業	2 感染症媒介蚊の生息状況調査
	3 山形県感染症発生動向調査事業	
	4 医薬品検査	
	5 家庭用品検査	
	6 食品中のアレルギー物質検査	
	7 排水検査	
	8 所報、衛研ニュースの編集・発行	
	9 研修等の企画調整	
理化学部	1 食品中の残留農薬検査	1 中毒原因となる自然毒の多成分一斉分析法の開発
	2 畜水産食品中の残留有害物質モニタリング検査	
	3 環境放射能水準調査	
	4 山形県放射線物質検査(食品)	
微生物部	1 感染症、食中毒発生時の病因探索	1 山形県における <i>Mycoplasma pneumoniae</i> の疫学解析及び薬剤耐性遺伝子変異迅速検出系の確立
	2 感染症流行予測調査事業	
	3 山形県感染症発生動向調査事業	2 コロナウイルスの疫学研究
	4 C型肝炎抗体・B型肝炎抗原検査	3 パレコウイルス3型の疫学研究
	5 後天性免疫不全症候群対策事業	
	6 結核感染診断のためのQFT検査	
	7 麻しん排除に向けた麻しん検査	
研修業務等	1 保健所試験検査担当職員研修会	
	2 衛生研究所業務報告会	
	3 インターンシップの受入	

## 2 生活企画部

### 1) 花粉症予防対策事業

平成 28 年の春に県内で飛散する花粉数を予測し、衛研ニュースや衛生研究所のホームページで情報提供した。また、スギ花粉飛散シーズンの平成 28 年 2 月～5 月にかけて、県内 4 地点（庄内、最上、置賜の各保健所および衛生研究所）のダーラム型花粉捕集器で得られた日々のスギ花粉飛散数を山形県衛生研究所ホームページで公開し、県医師会等へメールで提供した（表 1）。さらに、スギ花粉の飛散開始前から飛散開始初期（平成 27 年 2 月）にかけては、スギ花粉アレルギー（Cry j 1）濃度について同ホームページで提供した。

### 2) 行政検査

#### (1) 家庭用品

家庭用品規制に係る監視指導要領に基づく試買試験を実施した（表 2）。その結果、実施した項目において不適品はなかった。

**表 2 家庭用品試買試験**

試買試験品目	生後 24 ヶ月以下の乳幼児用の 繊維製品	
検査項目	ホルムアルデヒド	有機水銀化合物
件数	13	9
データ数	13	9

#### (2) 食品中のアレルギー物質検査

食品安全衛生課の依頼により、県内で製造された加工食品のうち、そばを原材料としていない食品 5 検体、落花生を原材料としていない食品 5 検体についてアレルギー物質の検査を実施した。

その結果、すべての検体の検査結果は陰性であった。

### 3) 調査研究

- (1) ヒスタミンによる食中毒防止のための研究
- (2) 感染症媒介蚊の生息状況調査

### 4) 公衆衛生情報の収集及び提供事業

- (1) 学術雑誌等資料を年 12 回（No.263-274）作成し、保健所等県関係機関に配布した。これに対し保健所等から請求があった 53 件の文献を提供した。
- (2) 所報 No.48 を作成し、衛生研究所ホームページで公開した（表 3）。
- (3) 衛研ニュースを年 4 回（No.176-179）作成し、衛生研究所ホームページで公開した（表 4）。

### 5) 図書及び資料等の収集管理

送付された報告書、雑誌、資料等の整理、学術雑誌の定期刊行物の製本（44 冊）を行った。

### 6) 職員研修

- (1) 保健所試験検査担当職員の検査技術の向上を図るための技術研修を行った。
- (2) 第 36 回山形県衛生研究所業務報告会を実施した。

※「5 研修業務等」参照

**表1 ダーラム法によるスギ花粉の調査結果(平成28年)**

	山形市	新庄市	米沢市	三川町
初観測日	2月13日	2月23日	2月19日	2月11日
飛散開始日	2月28日	2月28日	2月28日	2月28日
飛散終了日	4月20日	4月26日	4月25日	4月22日
最大飛散日	3月30日	3月30日	3月30日	3月17日
最大飛散数(個/cm <sup>2</sup> )	708	2,860	1,019	1,004
総飛散数(個/cm <sup>2</sup> )	<b>7,083</b>	<b>10,490</b>	<b>4,850</b>	<b>5,276</b>
総飛散数の過去平均値(*) (個/cm <sup>2</sup> )	3,288	3,649	3,281	4,104

\* 過去平均値は、山形市は昭和58年～平成28年(n=34)、新庄市および米沢市は平成元年～28年(n=28)、三川町は平成12年～28年(n=17)の平均を示す。

**表3 山形県衛生研究所報 No.48**

No.	題 名	著 者
	短 報	
1	中毒原因となる有毒植物の多成分一斉分析法の開発	笠原 翔 悟 他
	資 料	
1	山形県におけるC型インフルエンザウイルスの分離状況(2014)	田 中 静 佳 他
2	ヒスタミン測定キットを利用した水産調理加工品中のヒスタミン分析法検討	太 田 康 介
3	LC-MS/MSを用いた不揮発性アミンの一斉分析法の検討	佐 藤 陽 子 他
4	自然毒による食中毒事例(2014年)	長 岡 由 香 他
5	ツキヨタケ中の中毒成分 illudin S の含有量および塩蔵による消長	大 河 原 龍 馬 他
6	畜水産食品中の動物用医薬品におけるLC-MS/MS一斉分析法の妥当性評価	須 貝 裕 子

**表4 衛研ニュース**

No.	題 名	著 者
176	・ウイルス関連の研究成果が世界的な教科書で引用されました(2)！ ・「機能性表示食品」制度について ・薬になる植物(106)キササゲについて	所 長 水田 克巳 理 化 学 部 大滝麻井子 理 化 学 部 笠原 義正
177	・手足口病の大流行について ・山形県内で流行した肺炎マイコプラズマの抗菌薬耐性状況について ・ツキヨタケによる食中毒に注意！！ ・薬になる植物(107)エビスグサについて	生 活 企 画 部 小川 直美 微 生 物 部 鈴木 裕 理 化 学 部 大河原龍馬 理 化 学 部 笠原 義正
178	・ノロウイルスによる感染症にご注意ください！！ ・来年春に飛散するスギ花粉数の予想 ・インフルエンザB山形の由来 ・感染症発生動向調査週報のスタイルを変更します	微 生 物 部 田中 静佳 生 活 企 画 部 酒井真紀子 所 長 水田 克巳 生 活 企 画 部 小川 直美
179	・薬になる植物(108)ネムノキについて ・ジカウイルス感染症と媒介蚊、その対策 ・液体クロマトグラフ・タンデム質量分析計(LC-MS/MS)を用いた畜水産物中の動物用医薬品等の検査 ・薬になる植物(109)エンジュについて	理 化 学 部 笠原 義正 微 生 物 部 的場 洋平 理 化 学 部 佐藤 陽子 理 化 学 部 笠原 義正

◇ 感染症情報センター ◇

1) 山形県感染症発生動向調査

2015年第1週から第53週（2014年12月29日から2016年1月3日）までに県内の保健所に届出された疾病について、県内の感染症発生状況と病原体に関する情報を収集分析した。その結果を週報・月報として、関係機関（医療機関、保健所、教育庁等）にメール配信を行い、またホームページを通して広く情報を提供した。また、事業報告書（年報）を作成し、関係機関に配布した。

全数把握感染症は、19疾病305人の感染者が報告された（表1）。結核が141人で全体の約半数を占め、腸管出血性大腸菌感染症は、27事例、49人が報告され、うち1事例は集団発生と断定された。

定点把握感染症（26疾病）では、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病と伝染性紅斑が過去10年間で最多の報告数となった。インフルエンザの報告数は例年並みであったが、2014-2015年シーズンは例年に比べ流行開始が早く、迅速キットによる型別はA型が約9割を占めAH3香港型が多く分離された。

手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、流行期に県平均の定点当たりの報告数が警報レベルを上回ったため、県は警報を発令し注意喚起を行った。

表1 全数把握感染症

No.	疾病名	報告数
1	結核	141
2	腸管出血性大腸菌感染症	49
3	細菌性赤痢	1
4	E型肝炎	1
5	A型肝炎	5
6	つつが虫病	8
7	デング熱	1
8	レジオネラ症	17
9	アメーバ赤痢	7
10	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	14
11	急性脳炎	3
12	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4
13	後天性免疫不全症候群	2
14	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2
15	侵襲性肺炎球菌感染症	36
16	水痘（入院例）	1
17	梅毒	11
18	破傷風	1
19	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1
計		305

表2 定点把握感染症

No	疾病名	報告数
1	インフルエンザ	10141
2	RSウイルス感染症	1926
3	咽頭結膜熱	1171
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6693
5	感染性胃腸炎	11235
6	水痘	950
7	手足口病	6108
8	伝染性紅斑	1499
9	突発性発しん	1064
10	百日咳	16
11	ヘルパンギーナ	1193
12	流行性耳下腺炎	1399
13	急性出血性結膜炎	0
14	流行性角結膜炎	70
15	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	52
16	クラミジア肺炎	16
17	細菌性髄膜炎	11
18	マイコプラズマ肺炎	51
19	無菌性髄膜炎	12
20	性器クラミジア感染症	222
21	性器ヘルペスウイルス感染症	86
22	尖圭コンジローマ	31
23	淋菌感染症	25
24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	60
25	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	287
26	薬剤耐性緑膿菌感染症	3
計		44321

2) 病原体検出状況

県内の衛生研究所・保健所4施設・医療機関17施設の計22施設で検出した病原体数を月単位で検査材料別に報告を受け、これらを集計し関係機関に提供した。衛生研究所および4保健所からの報告は126件（表3）あり、17医療機関からは20,606件の報告（表4）があった。

表3 病原体検出状況(衛生研究所・保健所)

病原体	検出数
<i>E.coli</i> 腸管出血性 (EHEC/VTEC)	58
<i>E.coli</i> 腸管病原性 (EPEC)	16
<i>E.coli</i> 腸管凝集付着性 (EA <sub>g</sub> EC)	2
<i>E.coli</i> 他の下痢原性	10
<i>Salmonella</i> O4	6
<i>Salmonella</i> O7	3
<i>Salmonella</i> 群不明	1
<i>Campylobacter jejuni</i>	7
<i>Staphylococcus aureus</i>	8
<i>Bacillus cereus</i>	1
<i>Bordetella pertussis</i>	1
<i>Legionella pneumophila</i>	10
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	3
計	126

(検査材料：ヒト由来のみ)

表4 病原体検出状況（協力医療機関17ヶ所）

病原体 菌種・群・型	検査材料別 検出数								合計
	糞便	喀痰	咽頭	穿刺液	髄液	血液	尿	陰部	
<i>E.coli</i> 腸管出血性 (EHEC/VTEC)	20								20
<i>E.coli</i> 毒素原生 (ETEC)	6								6
<i>E.coli</i> 組織侵入性 (EIEC)	2								2
<i>E.coli</i> 病原性 (EPEC)	1								1
<i>E.coli</i> 他の下痢原性	53								53
<i>E.coli</i>				63		402	3151		3616
<i>Salmonella</i> O4	29								29
<i>Salmonella</i> O7	7								7
<i>Salmonella</i> O8	4								4
<i>Salmonella</i> O9	25								25
<i>Salmonella</i> O3,10	1								1
<i>Salmonella</i> spp.						4			4
<i>Salmonella</i> unknown	3								3
<i>Mycobacterium tuberculosis</i>		43							43
<i>Mycobacterium avium-intracellulare complex</i>		476							476
<i>Haemophilus influenzae</i>		715	1106			3			1824
<i>Neisseria gonorrhoeae</i>								5	5
<i>Enterobacter</i> spp.							258		258
<i>Klebsiella pneumoniae</i>		1148		15			604		1767
<i>Acinetobacter</i> spp.							52		52
<i>Listeria monocytogenes</i>					1	3			4
<i>Yersinia enterocolitica</i>	10								10
<i>Vibrio cholerae</i> non-O1&O139	1								1
<i>Vibrio parahaemolyticus</i>	2								2
<i>Aeromonas hydrophila</i>	6								6
<i>Aeromonas hydrophila/sobria</i>	4								4
<i>Plesiomonas shigelloides</i>	1								1
<i>Campylobacter jejuni</i>	55								55
<i>Campylobacter coli</i>	13								13
<i>Campylobacter jejuni/coli</i> 種別せず*	139								139
<i>Legionella pneumophila</i>		15							15
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>		1137		10		38	701		1886
MRSA	70	1184		13	2	65	167		1501
<i>Staphylococcus aureus</i> (non-MRSA)	79	1571		46	5	165	209		2075
<i>Staphylococcus</i> CNS				27		378	569		974
<i>Streptococcus</i> A T1		1	3						4
<i>Streptococcus</i> A T2			1						1
<i>Streptococcus</i> A T4			3						3
<i>Streptococcus</i> A T12			1						1
<i>Streptococcus</i> A T25			1						1
<i>Streptococcus</i> A dys.subsp.equisimilis		3							3
<i>Streptococcus</i> A UT			2						2
<i>Streptococcus</i> A NT		46	428						474
<i>Streptococcus</i> B		369			2	20		795	1186
PRSP/PISP		214	144	1	1	8			368
<i>Streptococcus pneumoniae</i> (non-PRSP/PISP)		530	784	8	5	29			1356
<i>Anaerobes</i>		2		64		52			118
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>		7							7
<i>Cryptosporidium</i> spp.	4								4
<i>Enterococcus</i> spp.							1336		1336
<i>Chlamydia trachomatis</i>								1	1
<i>Candida albicans</i>							179	676	855
<i>Trichomonas vaginalis</i>								4	4
合計	535	7461	2473	247	16	1167	7226	1481	20606

### 3 理化学部

#### 1) 行政検査

##### (1) 食品部門

###### ① 農産物検査

食品安全衛生課の依頼により、県内に流通する農産物について残留農薬検査を実施した(表1)。

その結果、残留基準を超えた農産物はなかった。

###### ② 冷凍加工野菜検査

食品安全衛生課の依頼により、県内に流通する冷凍加工野菜について残留農薬検査を実施した(表2)。

その結果、農薬は検出されなかった。

###### ③ 残留動物用医薬品検査

食品安全衛生課の依頼により、県内産畜水産食品の残留有害物質のモニタリング検査として、はちみつ、鶏卵、養殖魚、生乳、食鳥肉に残留する抗生物質、合成抗菌剤及び内寄生虫用剤を検査した(表3)。

その結果、残留基準を超えたものはなかった。

###### ④ 山形県放射性物質検査(食品)

2011年3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故を受け、山形県広域支援対策本部の依頼により、県産農畜水産物114検体、流通食品125検体、学校給食食材144検体、児童福祉施設給食24検体、水道水51検体の放射性物質検査を行った(表4)。

その結果、基準値を超えて検出された人工放射性物質はなかった。

##### (2) 環境部門

###### ① 環境放射能水準調査

全国の環境放射能水準調査の一環として原子力規制庁の依頼により県内の降水、大気浮遊じん、降下物、陸水(蛇口水)、海産生物及び空間線量率について調査を実施した。

定時降水試料(雨水)中の全 $\beta$ 放射能調査結果を表5に、ゲルマニウム半導体検出器による核種分析測定調査結果を表6に、空間放射線量率測定結果を表7に示した。

また、2016年1月には、北朝鮮による地下核実験を受け、降下物および大気浮遊じんについて毎日測定を実施した。その結果、人工放射性核種は検出されなかった。



表1 平成27年度県内流通農産物の残留農薬検査結果 (1/3)

単位：ppm

検査対象農産物 検査対象農薬	レタス	ほうれんそう	メロン	たまねぎ	なす	かき	ばれいしょ	だいこん
	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体
DDT	-	N. D	-	-	-	-	-	-
EPN	-	-	N. D	N. D	-	N. D	-	N. D
XMC	N. D	N. D	N. D	-	N. D	N. D	N. D	-
アクリナトリン	N. D	N. D	-	N. D	N. D	-	-	N. D
アセトクロール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
アセフェート	-	-	-	-	N. D	-	-	-
アトラジン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
アエロホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
アラクロール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
アルトリン及びデイルトリン	-	N. D	-	-	-	-	-	-
イソキサチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	-	N. D
イソプロカルブ	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
イソプロチオラン	-	-	N. D	N. D	-	N. D	N. D	N. D
イプロヘンホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
イマザリル	-	-	-	-	-	-	-	N. D
イントキサカルブ	-	-	-	-	-	-	-	N. D
エスプロカルブ	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エタルフルリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エディフェンホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エトキサゾール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エトフェンブロックス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エントリン	-	N. D	-	-	-	-	-	-
オキサシメソリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
オキサシメキシル	-	-	N. D	-	-	N. D	-	-
オキシフルオルフェン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
カルハリル	-	-	-	-	-	-	-	N. D
キナルホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
キノキシフェン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
キノクラミン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	-	N. D
キントゼン	N. D	N. D	-	N. D	-	-	-	-
クレソキシムメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルタルシメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルヒリホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルヒリホスメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルフェナピル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D~0.05(1)	N. D	N. D	N. D
クロルプロファミ	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルヘンシレート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
シアナジン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
シアノホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジエトフェンカルブ	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジクロシメット	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	-	N. D
ジクロフェンチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジクロホップメチル	N. D	N. D	-	-	N. D	-	-	-
ジクロラン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
シハロホップブチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	-	N. D
ジフェナミト	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジフェノコナゾール	N. D	N. D	N. D	-	N. D	N. D	-	-
ジフルヘンズロン	-	-	-	-	-	-	-	N. D
ジプロコナゾール	N. D	N. D	-	N. D	N. D	-	-	N. D
シマジン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジメタメトリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D

表1 平成27年度県内流通農産物の残留農薬検査結果 (2/3)

単位：ppm

検査対象農産物 検査対象農薬	レタス	ほうれんそう	メロン	たまねぎ	なす	かき	ばれいしょ	だいこん
	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体
ジメナミト	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジメトエート	-	-	-	-	-	-	N. D	-
シメリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジメヒペレート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ダイアジノン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
チアベンダゾール	-	-	-	-	-	-	-	N. D
チアメキサム	-	-	-	-	-	-	-	N. D
チオベンカルブ	N. D	N. D	N. D	-	N. D	N. D	N. D	-
テトラクロルピリンホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
テトラコナゾール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
テトラジホソ	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
テニルクロール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	-
テフコナゾール	-	-	N. D	N. D	-	N. D~0.01(1)	N. D	N. D
テフフェノシト	-	-	-	-	-	-	-	N. D
テフフェンピラト	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
テフルトリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
テフルベンソロン	-	-	-	-	-	-	-	N. D
テルフトリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
トリアジメホソ	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
トリアレート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
トリフホス	N. D	N. D	-	N. D	N. D	-	N. D	N. D
トリフルラリン	N. D	N. D	-	N. D	N. D	-	N. D	N. D
トリフロキシストロビン	-	-	N. D	-	-	N. D	N. D	-
トルクロホスメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ナブロハミト	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ニトタールイソフロピル	N. D	N. D	N. D	-	N. D	N. D	N. D	-
バクワトラゾール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
バラチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	-	N. D
バラチオンメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ハルフェンプロックス	N. D	N. D	-	N. D	N. D	-	-	-
ビフェントリン	N. D	N. D	-	N. D	N. D	-	N. D	N. D
ビペロホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビラクロホス	N. D	N. D	-	-	N. D	-	N. D	-
ビラゾホス	N. D	N. D	-	N. D	N. D	-	N. D	N. D
ビラフルフェンエチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビリタフェンチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビリタベン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビリフチカルブ	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビリフロキシフェン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビリミノバックメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビリミホスメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビリメタニル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	-	N. D
ビロキロン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ビンクワゾリン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
フェナリモル	N. D	N. D	N. D	-	N. D	N. D	N. D	-
フェントロチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	-	N. D
フェノチオカルブ	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
フェノフカルブ	-	-	-	-	-	-	-	N. D
フェンスルホチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	-	N. D
フェントエート	N. D	N. D	-	N. D	N. D	-	N. D	N. D
フェンブコナゾール	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	-	N. D
フェンブロフトリン	-	-	N. D	N. D	-	N. D~0.01(2)	N. D	N. D

表1 平成27年度県内流通農産物の残留農薬検査結果 (3/3)

単位：ppm

検査対象農産物 検査対象農薬	レタス	ほうれんそう	メロン	たまねぎ	なす	かき	ばれいしょ	だいこん
	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体	10検体
フェンプロピルモルブ	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
フサライド	N.D	N.D	-	N.D	N.D	-	N.D	N.D
ブタクロール	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ブタミホス	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ブピリメト	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ブプロフェジン	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
フルアクリピリム	N.D	N.D	N.D	-	N.D	N.D	N.D	-
フルキノザール	N.D	N.D	-	-	N.D	-	N.D	-
フルトリネート	N.D	N.D	-	N.D	N.D	-	N.D	N.D
フルトラニル	N.D	N.D	-	N.D	N.D	-	N.D	N.D
フルバトリネート	N.D	N.D	-	N.D	N.D	-	N.D	N.D
フルフェノクスロン	-	-	-	-	-	-	-	N.D
フルミオキサジン	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	-	N.D
フルリトリン	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	-	N.D
ブレチアクロール	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ブロシメトリン	N.D	N.D	N.D~0.06(1)	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ブロチオホス	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	-	N.D
ブロバクロール	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ブロバシジン	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ブロバニル	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ブロピコナザール	-	-	N.D	-	-	N.D	-	-
ブロピサミト	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ブロフェノホス	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	-	N.D
ブロボキスル	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ブロマシム	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ブロメトリン	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ブロモブピレト	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ブロモホス	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ヘキサコナザール	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ヘナラキシル	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ヘノキサコール	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ベルメトリン	N.D	N.D	-	N.D	N.D	-	N.D	N.D
ベニコナザール	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ベンシクロン	-	-	-	-	-	-	-	N.D
ベンテイメタリン	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ベンフルラリン	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	-
ベンフレセート	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
ホサロン	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	-	N.D
ホスチアセート	N.D	N.D	-	-	N.D	-	-	-
ホスファミトリン	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	-	N.D
マラチオン	N.D	N.D	-	N.D	N.D	-	N.D	N.D
ミクロブタニル	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
メタミトホス	-	-	-	-	N.D	-	-	-
メタキシル及びメフェノキサム	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
メチダチオン	-	-	N.D	N.D	-	N.D	N.D	N.D
メトキシクロール	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
メトラクロール	N.D	N.D	-	N.D	N.D	-	N.D	N.D
メフェナセート	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
メフェンピルシエチル	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D
メプロニル	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	N.D	-	-
リニエロン	-	-	-	-	-	-	-	N.D
ルフェエロン	-	-	-	-	-	-	-	N.D
データ数	1290	1320	1170	1240	1300	1170	1120	1320
検出されたデータ数	0	0	1	0	1	3	0	0
基準値を超えたデータ数	0	0	0	0	0	0	0	0

N.D：検出せず ( )内は検出データ数

表 2 冷凍加工野菜の残留農薬検査結果

検査項目	さといも	ブロッコリー	いんげん	ほうれんそう	こまつな	かぼちゃ
	6検体	6検体	5検体	1検体	1検体	1検体
E P N	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
アセフェート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エディフェンホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
エトリンホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
カズサホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
キナルホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルピリホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
クロルフェンピホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジクロフェンチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジクロルボス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジメチルピホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ジメトエート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ダイアジノン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
トルクロホスメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
パラチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
パラチオンメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ピリダフェンチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ピリミホスメチル	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
フェニトロチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
フェントエート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ブタミホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
プロチオホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
プロフェノホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ホサロン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ホスチアゼート	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ホスメット	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
ホルモチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
マラチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
メタミドホス	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
メダチオン	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D	N. D
データ数	186	186	155	31	31	31

N. D: 検出せず

表 3 残留動物用医薬品検査結果

検査項目	はちみつ	養殖魚	生乳	鶏卵	食鳥肉
	6検体	10検体	7検体	12検体	5検体
抗生物質	オキシテトラサイクリン	N. D (注)	N. D (注)	N. D	N. D
	クロルテトラサイクリン				
	テトラサイクリン				
合成抗菌剤	オキソリニック酸		N. D	N. D	N. D
	オルメトプリム		N. D	N. D	N. D
	スルファキノキサリン		N. D	N. D	N. D
	スルファクロルピリダジン		N. D	N. D	N. D
	スルファジアジン		N. D	N. D	N. D
	スルファジミジン		N. D	N. D	N. D
	スルファジメトキシ		N. D	N. D	N. D
	スルファメトキサゾール		N. D	N. D	N. D
	スルファメラジン		N. D	N. D	N. D
	スルファモメトキシ		N. D	N. D	N. D
	トリメトプリム		N. D	N. D	N. D
	ピリメタミン		N. D	N. D	N. D
	内畜生虫剤	チアベンダゾール		N. D	N. D
	フルベンダゾール		N. D	N. D	N. D
データ数	6	150	105	168	75

N. D: 検出せず (注) オキシテトラサイクリンのみ

表 4 山形県放射性物質検査結果 (食品)

試料分類	件数	放射能 (Bq/kg)					
		I-131		Cs-134		Cs-137	
		最低値	最高値	最低値	最高値	最低値	最高値
農畜水産物	114	-	N. D	-	N. D	-	N. D
流通食品	125	-	N. D	-	N. D	N. D	9.2
給食食材	144	-	N. D	-	N. D	-	N. D
児童福祉施設給食	24	-	N. D	-	N. D	-	N. D
水道水	51	-	N. D	-	N. D	-	N. D

N. D: 検出限界以下

- : 最高値N. Dの場合、最低値なし

表 5 定時降水試料中の全β放射能調査結果

採取年月	降水量 (mm)	測定数	放射能 (Bq/L)		月間降水量 (MBq/km <sup>2</sup> )
			最低値	最高値	
平成27年	4月	89.5	9	-	N. D
	5月	40	4	-	N. D
	6月	78	7	-	N. D
	7月	76	10	-	N. D
	8月	101.5	7	-	N. D
	9月	201.5	11	-	N. D
	10月	30.5	4	-	N. D
	11月	87	10	-	N. D
	12月	93.5	7	-	N. D
平成28年	1月	110.5	6	-	N. D
	2月	43	9	-	N. D
	3月	18.5	6	-	N. D
年間値	969.5	90	-	N. D	N. D

N. D: 検出限界以下

- : 最高値N. Dの場合、最低値なし

表 6 核種分析測定調査結果

試料名	採取地	件数	I-131		Cs-134		Cs-137		単位
			最低値	最高値	最低値	最高値	最低値	最高値	
大気浮遊じん	山形市	4	—	N. D	—	N. D	—	N. D	mBq/m <sup>3</sup>
降下物	山形市	12	—	N. D	0.067	1.5	0.22	5.5	MBq/km <sup>2</sup>
陸水(蛇口水)	山形市	5	—	N. D	N. D	0.7	0.76	2.5	mBq/L
海産生物	サザエ	酒田市	N. D		N. D		0.051		Bq/kg生
	ワカメ	酒田市	N. D		N. D		N. D		

N. D : 検出限界以下

— : 最高値N. Dの場合、最低値なし

表 7 空間線量率測定結果

測定年月	モニタリングポスト (nGy/h)			サーベイメータ (nGy/h)	
	最低値	最高値	平均値		
平成27年	4月	44	59	46	40
	5月	44	63	46	50
	6月	44	61	46	40
	7月	44	56	46	40
	8月	44	57	46	50
	9月	44	62	46	40
	10月	44	57	46	40
	11月	44	59	46	40
平成28年	1月	36	59	43	40
	2月	37	53	43	50
	3月	43	67	46	40
年間値	36	82	46	40~50	

## 2) 調査研究

(1) 中毒原因となる自然毒の多成分一斉分析法の開発 (所経常研究 H. 25~27)

イヌサフランの毒成分であるコルヒチンについて、LC-MS/MSを用いた分析を可能とした。開発した方法を用いてイヌサフランによる食中毒の原因特定を行った。5種類の有毒植物(ヒガンバナ、トリカブト、チョウセンアサガオ、コバイケイソウ、ジャガイモ)を用いて一斉分析を行い、5種全ての同時特定が可能となった。

## 3) 外部精度管理

(1) 平成27年度食品衛生外部精度管理調査(参加)

平成27年9月、10月に(一財)食品薬品安全センターが実施したかぼちゃペースト中の残留農薬検査及び鶏肉ペースト中の残留動物用医薬品検査に参加した。

## 4 微生物部

### ◇ 細菌部門 ◇

#### 1) 一般依頼検査

有料である一般依頼検査では、原虫・寄生虫検査として、水道事業者からの依頼により水道水中のクリプトスポリジウム及びジアルジアの検査を 11 件行った。血液検査として、医療機関からの依頼によりツツガムシ病の血液検査を 11 人について行い、5 人のつつが虫病患者が確認された。（表 1）

表 1 一般依頼検査

検査項目	検体数	データ数
(1)原虫・寄生虫検査		
クリプトスポリジウム・ジアルジア	11	22
(2)血液検査		
つつが虫病血液検査	11	35
合計	22	57

#### 2) 行政検査

県健康福祉企画課からの依頼による感染症及び感染症発生動向調査事業に係る検査、並びに県食品安全衛生課からの依頼による食中毒に係る検査を行った（表 2）。

##### (1) 感染症対策事業

腸管出血性大腸菌等の精査（性状，病原因子確認，DNA 型別）が 58 件あった。

##### (2) 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査事業として、レジオネラ症，マイコプラズマ肺炎，ライム病，Q熱，レプトスピラ症，マラリアが疑われるものについて病原学的検査を行った。

表 2 行政検査

検査項目	検査内容	検体数	データ数
(1) 感染症予防対策事業	菌株精査(病原因子, DNA 型別等)	98	146
(2) 感染症発生動向調査事業	A 群溶レン菌, レジオネラ症等	150	319
(3) 後天性免疫不全症候群対策	性器クラミジア	327	654
(4) 結核予防対策	結核菌インターフェロンガンマ遊離試験	772	772
	反復配列多型(VNTR)分析	58	1392
	合計	1405	3283

##### (3) 後天性免疫不全症候群対策

後天性免疫不全症候群対策の一環として性器クラミジア感染症血液検査を行った。検査を希望する人を対象に保健所で採血が行われた。327 人の検査を行い、37 人が陽性であった。

##### (4) 結核予防対策

結核予防対策の一環として接触者等におけるインターフェロンガンマ遊離試験（QFT 検査）を実施した。また、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 15 条の規定による積極的疫学調査の一環として、結核菌反復配列多型（VNTR）分析を実施した。

##### (5) 三類感染症発生状況

腸管出血性大腸菌感染症では、78 人の感染者が確認された。

#### 3) 調査研究

(1) 山形県における *Mycoplasma pneumoniae* の疫学解析及び薬剤耐性遺伝子変異迅速検出系の確立

山形県で分離された肺炎マイコプラズマの疫学解析を実施し、論文として公表した（感染症誌. 2015; 89: 16-22）。さらに、臨床検体から薬剤耐性遺伝子変異を直接検出する系を検討した。

(2) 食品由来感染症の病原体情報の解析及び共有化システムの構築に関する研究（厚生労働科学研究費補助金，新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業，研究代表者 泉谷秀昌）

分担研究として秋田県健康環境センター熊谷優子氏の協力研究を行った。

◇ ウイルス部門 ◇

1) 行政依頼検査

(1) 防疫対策事業

2015/2016 シーズンのインフルエンザの流行を予測するため、県内在住の 351 名の血清 HI 抗体価を測定した。AH1pdm2009 (2009 年の新型) の A/カリフォルニア/7/2009 (H1pdm) に対する抗体保有率 (1:40 以上) は、26.5~85.7%であった。A 香港の A/スイス/9715293/2013 に対する抗体保有率は 86.2~100%と比較的高くなっていった。B/プーケット/3072/2013 (山形系統) に対する抗体保有率は、50.0~91.4%であつ

た。B/テキサス/2/2013 (ビクトリア系統) については、57.1~89.7%の抗体保有率であった。その他、202 名、215 名の皆様にご協力いただき、それぞれ麻疹、ポリオウイルスに対する抗体保有状況調査を実施した。結果は衛生研究所微生物部ホームページを参照。

(2) 感染症発生動向調査事業

検査定点等から送付された、上気道炎由来、胃腸炎由来、眼科疾患由来、神経系疾患由来など 2094 検体についてウイルス検査を実施した。検査は細胞培養によるウイルス分離と一部 PCR 法による遺伝子検出により行い、アデノウイルス 59 株、インフルエンザ 211 株等が分離または検出された (表 1)。

表 1 臨床診断別ウイルス分離・検出数 (平成 27 年度)

診断名	アデノウイルス								インフルエンザウイルス					RS	hMPV	パラインフルエンザウイルス		
	1	2	3	5	19	37	54	56	AH1pdm	AH3	BY	BV	C			Para1	Para3	Para4
インフルエンザ									68	5	43	14	1					
上気道炎	8	19	9	6					21	1	22	1	26	32	36	21	57	33
下気道炎	4	1	2						2		2	1	1	8	6	5	15	7
ヘルパンギーナ																	1	
手足口病																	1	1
ウイルス性発疹									1				1				3	1
流行性耳下腺炎		1															1	
流行性角結膜炎			1		1	3	1	1										
ウイルス性髄膜炎																		
麻疹																		
脳炎・脳症																1		
感染性胃腸炎		1												1			2	
伝染性紅斑																		
デング熱																		
肝炎																		
その他		1							1					1				5
合計	12	23	12	6	1	3	1	1	93	6	67	16	29	42	42	27	85	42

診断名	ピコルナウイルス															
	CoxA2	CoxA5	CoxA6	CoxA9	CoxA10	CoxA14	CoxA16	CoxB3	CoxB4	CoxB5	Echo9	Echo16	Ent68	Saffold3	Parecho1	Rhino
インフルエンザ				1						1						
上気道炎	7	1	6	8	7	1	2	6	2	31		2	40	2	3	36
下気道炎				1			2	1	1	3			21		3	10
ヘルパンギーナ					2					1						
手足口病			21		1	1	17								1	
ウイルス性発疹				1						1						
流行性耳下腺炎																1
流行性角結膜炎																
ウイルス性髄膜炎				1						3	2					
麻疹																
脳炎・脳症																
感染性胃腸炎											1					
伝染性紅斑																
デング熱																
肝炎																
その他			1					1						1		1
合計	7	1	28	12	10	2	21	8	3	40	3	2	62	2	7	48

診断名	ハルホ B19	サイトメガロ	ヘルペス	風しん ワクチン株	麻疹 ワクチン株	コロナウイルス				G2	HAV	デング2	合計
						229E	OC43	NL63	HKU1				
インフルエンザ		2											135
上気道炎		77	9	1	1	8	2	19	8				571
下気道炎		20		2				1	2				121
ヘルパンギーナ		6	1										11
手足口病		3											46
ウイルス性発疹		7	3	1									19
流行性耳下腺炎													3
流行性角結膜炎													7
ウイルス性髄膜炎													6
麻疹													0
脳炎・脳症			1										2
感染性胃腸炎		4							1	1			11
伝染性紅斑													0
デング熱											1		1
肝炎											3		3
その他	3	4	5										24
合計	3	123	19	4	1	8	2	20	11	1	3	1	960

(3) C型肝炎ウイルス抗体検査

356件実施し、3検体が抗体強力価(1:4096倍以上)であった。

(4) B型肝炎ウイルス抗体検査

374件の検査を実施し、5検体が陽性であった。

(5) 食中毒関連検査

ウイルス起因疑いの食中毒(様)事件の患者便とウイルス性感染性胃腸炎疑いの集団発生例についてNorovirus(NV)の検査を行った。その結果、20事例において患者糞便等149検体中88検体からNV遺伝子が検出された。

## 2) 調査研究

(1) 麻疹ならびに風疹排除およびその維持を科学的にサポートする実験室検査に関する研究(平成25~27年度厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業)

(2) エンテロウイルス71型の分子疫学研究  
(平成26年度東北乳酸菌研究会)

(3) コロナウイルスの疫学研究(平成27~29年度)  
などを実施した。

## 3) 発生動向調査及び血清疫学調査のデータ還元

県内のウイルス感染症流行状況のデータを県民の皆様・医療機関に還元し、また県民の皆様の感染症に対する関心を高めるために、毎週、ウイルス検出情報、地区別インフルエンザウイルス検出状況(流行時のみ)を更新した。



## 5 研修業務等

### 1) 平成 27 年度保健所試験検査担当職員研修会

研修目的：保健所で行う試験検査等に必要な技術及び知識等の習得と検査精度の向上を目的とする。

〈課題研修〉

- ・開催日：平成 27 年 6 月 3 日～6 月 5 日
- ・参加者：12 名
- ・研修内容

#### 理化学関係実習

1. 理化学分析の基礎に関すること
2. 食品中に残留する農薬等の試験法について
3. 廃棄物の適正処理について
4. 「食品中の有毒物質等に関する分析法の妥当性確認ガイドライン」について

#### 微生物関係実習

1. 病原体取り扱いの基礎習得
2. 三類感染症病原体（腸管出血性大腸菌、赤痢菌、コレラ菌）の検査法
3. リステリア菌の検査法
4. 遺伝子検出法の習得

#### 業務検討会

1. 「生食用殻付きかき」の検査法について
2. 食品中の腸管出血性大腸菌検査法改定に伴う諸問題
3. 一般依頼検査に関する Q&A 改定作業の報告
4. 生あんの違反事例について
5. エルシニア・エンテロコリチカによる食中毒事例における細菌検査

### 2) 第 36 回山形県衛生研究所業務報告会

- ・開催日：平成 28 年 3 月 2 日

#### 理化学部

- ・ドリン系及び DDT 農薬検査に係る GC-MS 測定の検討Ⅱ 山口 博子
- ・加工食品中に高濃度に含まれる農薬等の迅速検出法について 新藤 道人

- ・LC-MS/MS を用いたテトラサイクリン系抗生物質試験法の検討 佐藤 陽子
- ・QuEChERS 法を用いた LC-MS による農薬等の一斉試験法の検討 大滝麻井子
- ・QuEChERS 法を用いた GC-MS による農薬等の一斉試験法の検討 萬年美穂子
- ・アセフェート、オメトエート及びメタミドホス個別試験法の検討 篠原 秀幸
- ・山形県における環境放射能水準調査について（2012 年 4 月～） 長岡 由香
- ・自然毒中毒の新規分析法および適用事例報告 笠原 翔悟
- ・ツキヨタケの簡易判別法の開発（予試験の結果） 大河原龍馬

#### 微生物部

- ・2015 年東北・新潟ブロックにおける麻疹・風疹検査状況 青木 洋子
- ・SapphireAmp Fast PCR Master Mix を用いた迅速、安価な結核菌反復配列多型分析法の確立 瀬戸 順次
- ・山形県の 2014/2015 インフルエンザ流行期におけるヒトコロナウイルス OC43 の流行 的場 洋平
- ・山形県における 2015 年の手足口病の流行 田中 静佳
- ・山形県における輸入つづが虫病の 1 症例 鈴木 裕

#### 生活企画部

- ・ヒスタミンによる食中毒防止のための研究 太田 康介
- ・山形県における 2015 年の感染症発生動向 酒井真紀子
- ・2015 年の山形市等における蚊の発生状況調査 小川 直美
- ・山形県における 2015 年のスギ花粉飛散状況と今シーズンの飛散予測（誌上発表） 酒井真紀子

### 3) インターンシップの受入

#### 1) 東北薬科大学 インターンシップ

薬学部薬学科 4年 1名

期間：平成 27 年 8 月 20 日

研修内容：

- ・衛生研究所の概要
- ・生活企画部  
感染症媒介蚊関係調査について  
医薬品・食物アレルギー物質等の検査について  
花粉症関係調査について  
感染症動向調査について
- ・微生物部  
ガイダンス・教育訓練  
細菌・ウイルス各実験室見学
- ・理化学部  
ガイダンス  
県内流通農産物等残留農薬検査について  
植物性自然毒について  
放射能について

#### (2) 山形大学農学部 インターンシップ

食料生命環境学科 3年 2名 計 2名

期間：平成 27 年 8 月 24 日～29 日

研修内容：

- ・衛生研究所の概要
- ・理化学部  
食品の農薬等の検査について  
植物性自然毒について  
放射能について
- ・生活企画部  
感染症媒介蚊関係調査について  
医薬品・食物アレルギー物質等の検査について  
花粉症関係調査について  
感染症動向調査について
- ・微生物部  
細菌・ウイルス実験室見学  
山形大学医学部ウサギ免疫見学
- ・若手研究員との意見交換（ディスカッション）

#### (3) 獣医系大学 インターンシップ

酪農学園大学獣医学類	4年	1名
東京農工大学共同獣医学科	4年	1名
岩手大学共同獣医学科	3年	2名
帯広畜産大学共同獣医課程	4年	1名
麻布大学獣医学科	4年	1名
東京大学獣医学課程獣医学専修	5年	1名
		計 7名

期間：平成 27 年 9 月 4 日

研修内容：

- ・衛生研究所の概要
- ・生活企画部の業務について
- ・微生物部の業務について
- ・理化学部の業務について
- ・山形県獣医師会公衆衛生講習会

## 6 年間動向

## 1) 会議・検討会等出席

年 月	名 称	開 催 地	出 席 者
2015年 6月	平成27年度全国地方衛生研究所長会議・全国協議会臨時総会	東 京 都	水田克巳
2015年 7月	厚生労働省科学研究 麻疹ならびに風疹排除およびその維持を科学的にサポートするための実験室検査にかかる研究班会議	北 海 道	青木洋子
2015年 7月	平成27年度第1回山形県科学技術会議	山 形 市	水田克巳
2015年 8月	第1回山形県知的財産管理審査委員会	山 形 市	安孫子正敏
2015年 8月	平成27年度地域保健総合推進事業第1回地方衛生研究所地域ブロック会議	宮 城 県	笠原義正
2015年 8月	次期山形県科学技術政策大綱に係る第1回検討部会	山 形 市	安孫子正敏
2015年 10月	地方衛生研究所地域専門家会議、全国協議会総会・研修会、及び地域レファレンスセンター連絡会議	新 潟 県	瀬戸順次
2015年 10月	地方衛生研究所地域専門家会議 微生物研究部会総会・研修会	新 潟 県	的場洋平
2015年 10月	平成27年度地方衛生研究所全国協議会 北海道・東北・新潟支部 衛生化学研究部会総会	岩 手 県	長岡由香・萬年美穂子
2015年 10月	平成27年度地方衛生研究所全国協議会 北海道・東北・新潟支部 公衆衛生情報研究部会総会・研修会	青 森 県	小川直美
2015年 11月	平成27年度第66回地方衛生研究所全国協議会総会	長 崎 県	土田達朗
2015年 11月	結核医療連絡会	山 形 市	瀬戸順次・鈴木裕
2015年 11月	平成27年度指定薬物分析研修会議	東 京 都	酒井真紀子・小川直美
2015年 11月	平成27年度先天性代謝異常等検査業務検討会	山 形 市	安孫子正敏
2015年 11月	第2回研究評価委員会	山 形 市	水田克巳 他4名
2015年 11月	平成27年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会研究発表会	和 歌 山 県	太田康介
2015年 11月	次期山形県科学技術政策大綱に係る第2回検討部会	山 形 市	安孫子正敏
2015年 11月	全国疫学情報ネットワーク構築会議	東 京 都	小川直美
2015年 12月	第52回全国衛生化学技術協議会年会	静 岡 県	笠原義正・長岡由香・太田康介
2015年 12月	平成27年度「地域保健総合推進事業」第2回地方衛生研究所地域ブロック会議	宮 城 県	水田克巳
2015年 12月	感染症対策における地理情報の活用方法に関する打合わせ	京 都 府	瀬戸順次
2015年 12月	厚生労働省科学研究 「新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメント」研究班第1回研究班会議	東 京 都	青木洋子
2015年 12月	感染症法改正等に関する担当者説明会	東 京 都	矢作一枝
2015年 12月	平成27年度第2回山形県科学技術会議	山 形 市	安孫子正敏
2016年 1月	第42回山形県公衆衛生学会第2回運営委員会	山 形 市	水田克巳
2016年 1月	厚生労働省科学研究 「新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメント」研究班第2回岸本班グループ会議	東 京 都	青木洋子

年 月	名 称	開 催 地	出 席 者
2016年 1月	第29回公衆衛生情報研究協議会総会及び研究会	埼 玉 県	小川直美
2016年 2月	平成27年度狂犬病予防業務担当者会議	東 京 都	矢作一枝
2016年 2月	平成27年度地方衛生研究所全国協議会衛生化学分野研修会	東 京 都	笠原翔悟
2016年 2月	次期山形県科学技術政策大綱に係る第3回検討部会	山 形 市	安孫子正敏
2016年 3月	平成27年度放射線監視結果収集調査検討会	東 京 都	大河原龍馬・ 篠原秀幸
2016年 3月	平成27年度第3回山形県科学技術会議	山 形 市	安孫子正敏
2016年 3月	山形県紅花生産組合連合会記念式典	山 形 市	笠原義正・長岡由香

## 2) 学会・研究会等出席

年 月	名 称	開 催 地	出 席 者
2015年 4月	第89回日本感染症学会学術講演会	京 都 府	鈴木裕
2015年 5月	日本食品衛生学会第109回学術講演会	東 京 都	笠原義正
2015年 6月	第56回日本臨床ウイルス学会	岡 山 県	水田克巳・的場洋平
2015年 6月	第23回SADI震災復興記念大会	宮 城 県	瀬戸順次
2015年 7月	平成27年度東北乳酸菌研究会総会	宮 城 県	水田克巳
2015年 7月	衛生微生物技術協議会第36回研究会	宮 城 県	水田克巳 他4名
2015年 8月	第69回日本細菌学会東北支部総会	福 島 県	水田克巳・的場洋平
2015年 9月	東北食中毒研究会第28回全体会議、研修会及び特別講演	青 森 県	矢作一枝・鈴木裕
2015年 10月	第38回農薬残留分析研究会	愛 知 県	新藤道人
2015年 10月	第110回日本食品衛生学会学術講演会	京 都 府	太田康介
2015年 10月	人と動物共通感染症研究会学術集会	東 京 都	的場洋平
2015年 11月	日本公衆衛生学会総会	長 崎 県	瀬戸順次
2015年 11月	第3回日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム	東 京 都	矢作一枝
2015年 11月	第36回山形県医学検査学会	鶴 岡 市	鈴木裕
2015年 11月	平成27年度結核菌 IVNTRI 技術研究会	東 京 都	鈴木裕
2015年 11月	第2回東北野生動物管理研究交流会	福 島 県	的場洋平
2015年 11月	第22回リケッチア研究会	東 京 都	瀬戸順次・鈴木裕
2016年 1月	JSPS Influenza and other respiratory virus seminar inNiigata 2016-東北大-新潟大 Exchange Meeting	新 潟 県	水田克巳
2016年 1月	第27回日本臨床微生物学会総会・学術集会	宮 城 県	水田克巳・瀬戸順次・ 的場洋平
2016年 2月	第16回医薬品等ウイルス安全性シンポジウム	東 京 都	青木洋子
2016年 2月	平成27年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会	秋 田 県	瀬戸順次・的場洋平
2016年 3月	第42回山形県公衆衛生学会	山 形 市	水田克巳 他7名
2016年 3月	平成27年度(第三回)日本食品分析センター講演会	宮 城 県	太田康介
2016年 3月	健康博覧会 2016	東 京 都	長岡由香

## 3) 研修会・講習会等出席

年 月	名 称	開 催 地	出 席 者
2015年 4月	医薬品規格試験の業務効率化セミナー	山 形 市	酒井真紀子・ 小川直美
2015年 4月	医学系研究の倫理等に関する研修会	山 形 市	安孫子正敏 他6名
2015年 4月	山形大学動物実験教育訓練研修会	山 形 市	矢作一枝・的場洋平
2015年 5月	特定原材料検査確認試験研修	神 奈 川 県	小川直美
2015年 5月	平成27年度食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会	東 京 都	佐藤陽子
2015年 6月	クオంటィフェロンTBゴールド検査完全習得講座	東 京 都	田中静佳
2015年 6月	平成27年度狂犬病予防業務地方ブロック技術研修会	岩 手 県	的場洋平
2015年 7月	感染症媒介蚊生息状況調査に係る施設見学	東 京 都	小川直美
2015年 7月	初級定量トレーニング、中級定量トレーニング	東 京 都	佐藤陽子
2015年 8月	ゲルマニウム半導体検出器による測定法(第一回)	千 葉 県	大河原龍馬
2015年 9月	統計専門研修	山 形 市	小川直美・佐藤陽子
2015年 9月	平成27年度山形県獣医師会講習衛生講習会	山 形 市	水田克巳 他7名
2015年 9月	第55回東北ブロック食品衛生・環境衛生監視員研修会	山 形 市	笠原義正
2015年 10月	新興再興感染症技術研修	東 京 都	田中静佳
2015年 10月	動物由来感染症対策技術研修会	東 京 都	的場洋平
2015年 11月	IGRAセミナー I N東京	東 京 都	田中静佳
2015年 11月	認知症サポーター養成講座	山 形 市	小川直美 他2名
2015年 11月	放射線・原子力災害対策研修会	山 形 市	篠原秀幸
2015年 12月	平成27年度感染制御部門研修会	山 形 市	瀬戸順次
2016年 1月	感染症危機管理研修会	山 形 市	小川直美・瀬戸順次
2016年 1月	平成27年度残留農薬等研修会	東 京 都	大滝麻井子
2016年 2月	平成27年度新型インフルエンザ等対策研修会	山 形 市	水田克巳 他5名
2016年 2月	平成27年度希少感染症診断技術研修会	東 京 都	青木洋子・鈴木裕
2016年 2月	平成27年度結核講演会	山 形 市	鈴木裕
2016年 3月	国際結核セミナー、全国結核対策推進会議	東 京 都	鈴木裕
2016年 3月	平成27年度結核対策特別促進事業「結核対策研修会」	山 形 市	瀬戸順次・鈴木裕
2016年 3月	電気泳動からウエスタンブロッティング A t o Z	東 京 都	酒井真紀子
2016年 3月	改正感染症法の施行に係る病原体検出情報システム操作説明会	東 京 都	小川直美
2016年 3月	平成27年度公衆衛生講習会	山 形 市	水田克巳 他6名

## 4) 講演等

年 月	名 称	開 催 地	出 席 者
2015年 4-7月	山形大学地域教育文化学部講師	山 形 市	笠原義正
2015年 4-5月	山形大学医学部講義講師	山 形 市	笠原義正
2015年 4月	日本薬用植物友の会 市民公開講演会講師	宮 城 県	笠原義正
2015年 6月	岩手大学農学部共同獣医学科講師	岩 手 県	瀬戸順次
2015年 7月	第4回 IGRA 臨床研究会議講師	東 京 都	瀬戸順次
2015年 7月	北里大学獣医学部獣医学科講師	青 森 県	瀬戸順次・的場洋平
2015年 7月	衛生微生物技術協議会第36回研究会、シンポジウムⅡインフルエンザを中心とした呼吸器系感染症講演	宮 城 県	水田克巳
2015年 7月	公立置賜総合病院研修会講師	川 西 町	瀬戸順次
2015年 8月	The 5th Seminar on Infectious Diseases Epidemiology, Tohoku University Graduate School of Medicine, 3rd August 2015, Sendai 講演	宮 城 県	水田克巳
2015年 8月	平成27年度結核予防技術者地区別講習会講師	秋 田 県	瀬戸順次
2015年 9月	第55回東北ブロック食品衛生・環境衛生監視員研修会講師	山 形 市	笠原義正
2015年 9月	東北食中毒研究会第28回全体会議及び研修会講演	青 森 県	鈴木裕
2015年 9月	第14回山形県科学技術奨励賞授与式・発表	山 形 市	水田克巳・的場洋平
2015年 10月	平成27年度地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部微生物部会研修会講演	新 潟 県	瀬戸順次・的場洋平
2015年 11月	酪農学園大学獣医学群講師	北 海 道	的場洋平
2015年 11月	平成27年度第2回結核医療連絡会講師	山 形 市	瀬戸順次
2015年 11月	平成27年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒研究部会発表会講演	和 歌 山 県	笠原義正
2015年 12月	山形市立第三中学校教育講演	山 形 市	笠原義正
2015年 12月	放送大学山形学習センター開設20周年記念公開講演会	新 庄 市	水田克巳
2016年 1月	The Program of JSPS (Japan Society for the Promotion of Science) Influenza Other Respiratory Virus Seminar in Niigata 2016 講演	新 潟 市	水田克巳
2016年 2月	平成27年度第14回大都市結核対策研究会講師	大 阪 府	瀬戸順次
2016年 3月	食の安全・安心セミナー (JA庄内田川) 講師	山 形 市	笠原義正
2016年 3月	平成27年度結核対策特別促進事業「結核講演会」講師	群 馬 県	瀬戸順次
2016年 3月	第36回山形県衛生研究所業務報告会 特別講演	山 形 市	笠原義正

## 5) 表彰等

年 月	名 称	開 催 地	受 賞 者
2015年 9月	第14回山形県科学技術奨励賞受賞	山 形 市	的場洋平